

とうかさん

“とうかさん”は広島の三大祭りの1つで、400年以上も地元住民や旅行者を集めてきました。元々、陰暦の5番目の月の5番目の日に開催されてきたこの3日間のお祭りは、現在は毎年6月の最初の金曜日から開催されます。夏の到来を市全体で祝うこのお祭りは、伝統的な軽い綿の着物“浴衣”で着飾る機会でもあります。大勢の人たちがこの機会にカラフルな新しい浴衣に初めて袖を通して楽しく飲み歩き、浴衣のファッションショーまで開催されます。実際、このお祭りは一般に浴衣祭りとも呼ばれています。中央通り沿いに何百もの露店が出て、かき氷（かんなで削って味をつけた氷）や子供のおもちゃ、カラフルなうちわなどを売っています。ゲームや太鼓の演奏、そして盆踊りでは見物客も参加するよう誘われて、お祭りの気分を盛り上げます。

“とうかさん”には最初からファッションショーやカーニバルの要素があった訳ではありませんが、常にお祝いの機会だったことはたしかです。圓隆寺にある稻荷大明神の聖像を一般人が参拝できる唯一の機会です。この仏教の守護神格は、この寺が1619年に建立されて以来ここで崇拝されてきました。お祭りの期間中、人々は以前に購入したお守りや護符をお焚き上げしてもらうため寺に持ってきて、露店では次のとうかさんまで有効な新しい護符が売られています。